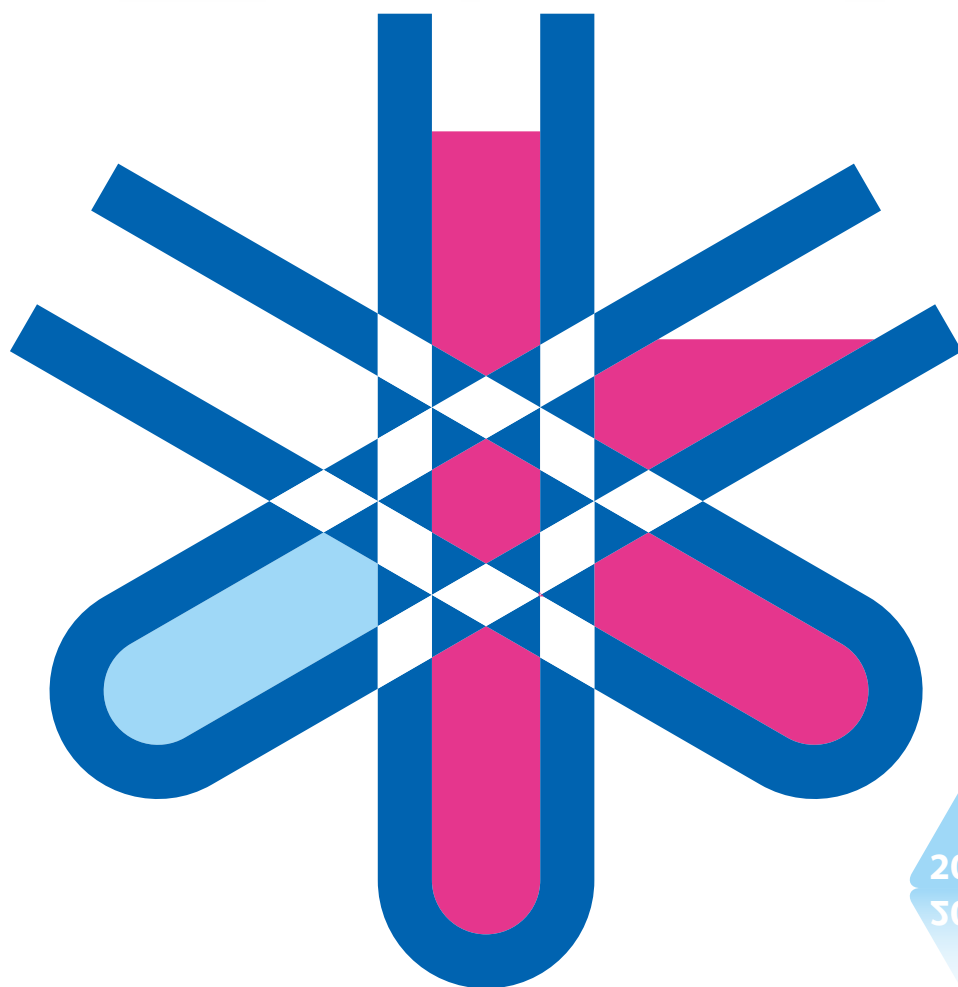


横査情報月報



2025
5052

7

2

横浜市衛生研究所

令和7年7月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和7年4月～6月）	1
レジオネラ属菌の検査結果（令和6年度）	2
家庭用品検査結果（令和6年度）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年6月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年6月）	8
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・種類同定検査結果（令和7年4月～6月）

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かり、効果的な対策を立てることにつながります。

令和7年4月から6月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類1件（ハエ目）、その他の節足動物1件（クモ目）でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・ 発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
マンション1階 廊下共用部分 にハエが多数飛 んでいる。 〈6月〉		ヒメイエバエ (ハエ目)	小型のハエで、早春から発生する。成虫は、屋内に侵入し、輪舞する。幼虫は動植物性の腐敗物、動物の排泄物、生ゴミなどに発生する。日本全土に分布する。
公園の利用者 がハイロゴケ グモに似たクモ を発見した。 〈6月〉	背面  腹面 	ハイロゴケグモ (クモ目)	基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。 体は褐色、灰色または黒色で個体差がある。腹部背面の正中線上に斑紋がある。腹面にゴケグモ類特有（砂時計型）の赤い斑紋がみられる。全世界の熱帯、亜熱帯及び温帯の一部に分布する。 ※1

雌成虫、褐色、背面に斑紋、
腹面に砂時計型の赤い斑紋
あり、約9mm

※1 横浜市内で確認されたゴケグモ属については、以下のウェブページに掲載されています。

【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市医療局ウェブページ)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

レジオネラ属菌の検査結果（令和6年度）

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で四類感染症に分類されています。

レジオネラ症は肺炎型とポンティアック熱型が主要な病型で、肺炎型では死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱型はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土ぼこりなどで運ばれて噴水などの水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水が誤って気道に入ったりすると感染する可能性があります。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふきとり検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。レジオネラ属菌が検出された施設においては、保健所が消毒等の衛生対策について指導を実施しています。

令和6年度は、延べ44施設、221検体（水試料107、ふきとり試料114）のレジオネラ属菌検査を行いました。検査はLAMP法を用いた遺伝子検査と培養法の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、患者自宅20、高齢者福祉施設15、公衆浴場2、医療機関4、寮1、事業所2でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは、延べ21施設、42検体（水試料26、ふきとり試料16）で、培養法で菌が検出されたのは11施設、19検体（水試料13、ふきとり試料6）でした。培養法で菌が検出された19検体のうち17検体がLAMP法陽性、2検体がLAMP法陰性でした。LAMP法または培養法で菌が検出された検体の施設と検体の内訳、菌同定結果は表に示しました。

表 レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	患者 検査結果	施設種類	検体名	LAMP法	培養法*1
1	当所での検査 未実施	患者自宅	浴槽水	+	5,600cfu/100mL (<i>Legionella</i> 属菌)
2	培養陰性	高齢者 福祉施設	浴槽水	+	10cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)
3	<i>L. pneumophila</i> SG1	患者自宅	シャワーヘッドふきとり	+	(-)
			シャワー水A	+	(-)
			シャワー水B	+	(-)
4	当所での検査 未実施	患者自宅	浴槽水(追いだき前)	+	1,600cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)
			浴槽水(追いだき後)	+	3,000cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)
			浴槽喫水面ふきとり	+	+
			桶ふきとり	+	(-)
			浴槽吐水口ふきとり	+	+
5	*2	事業所	シャワー水A	+	10cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG5)
			シャワー水B	+	(-)
6	*2	事業所	シャワー水	+	(-)
7	<i>L. pneumophila</i> SG1	患者自宅	浴槽水	+	(-)
			浴槽喫水面ふきとり	+	(-)
			浴槽追いだき口ふきとり	+	(-)
8	培養陰性	高齢者 福祉施設	浴槽水	+	(-)
9	培養陰性	患者自宅	浴槽水	(-)	10cfu/100mL (<i>L. maceachernii</i>)
10	他都市からの 調査依頼	公衆浴場	浴槽水A	+	(-)
			浴槽水B	+	(-)
			浴槽水C	+	(-)
11	培養陰性	患者自宅	シャワー水	+	60cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG3)
			シャワーヘッド粗目側ふきとり	+	(-)
			シャワーヘッド分解上ふきとり	+	(-)
			浴槽水	+	(-)
			浴槽追いだき口ふきとり	+	+
12	培養陰性	患者自宅	浴槽水	+	10cfu/100mL (<i>L. hackeliae</i>)
13	当所での検査 未実施	寮	風呂カラシ水	+	10cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)
			シャワーヘッドふきとり	+	+
			浴槽水	(-)	500cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)
			給湯水	+	(-)
			浴槽追いだき口ふきとり	+	+

表(続き) レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	患者 検査結果	施設種類	検体名	LAMP法	培養法*1	
14	当所での検査 未実施	高齢者 福祉施設	洗面給湯水	+	(-)	
15	当所での検査 未実施	患者自宅	浴槽追いだき口ふきとり 浴槽水	+	+	(<i>L. pneumophila</i> SG5) 40cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG5)
16	他都市からの 調査依頼	高齢者 福祉施設	シャワーヘッドふきとり	+	(-)	
17	<i>L. pneumophila</i> SG1	患者自宅	浴槽水	+	30cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG5)	
18	当所での検査 未実施	医療機関	シャワーヘッドふきとり	+	(-)	
	冷却塔水A		+	(-)		
	冷却塔水B		+	(-)		
19	培養陰性	患者自宅	浴槽喫水面ふきとり	+	(-)	
20	当所での検査 未実施	患者自宅	浴槽内壁ふきとり	+	(-)	
21	他都市からの 調査依頼	公衆浴場	浴槽水	+	20cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1、SG10)	
22	当所での検査 未実施	高齢者 福祉施設	シャワー水	+	(-)	

*1 培養法:水検体は陽性の場合100mL当たりの菌数(cfu: colony forming unit) cfu/100mLで表記し、ふきとり検体は + で表記する。陽性検体は()で同定した菌種、血清型を示した。

*2 自主検査でレジオネラ属菌が検出された施設の環境調査

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

家庭用品検査結果（令和6年度）

家庭用品とは、衣料品や洗浄剤など私たちが日常生活で使用している生活用品のことをいいます。家庭用品は、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」により、化学物質等の規制基準が決められており、衛生研究所で検査を行っています。

令和6年度は、医療局生活衛生課が市内販売店で購入した64検体について、延べ609項目の検査を実施しました。検査の結果、規制基準を超えた検体はありませんでした(表1)。参考に、家庭用品検査項目及び規制基準を示しました(表2)。

表1 令和6年度 家庭用品検査検体内訳及び検査結果

	検 体 数	違 反 件 数	検 査 項 目 数	検査項目内訳													容 器 試 験 [※]
				ホルムアルデヒド ^{※1}	ホルムアルデヒド ^{※2}	有機水銀化合物	トリフェニル錫化合物	トリブチル錫化合物	水酸化ナトリウム 又は水酸化カリウム	塩化水素又は硫酸	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	デイルドリン	DTTB ^{※3}	アゾ化合物 ^{※4}	
合 計	64	0	609	48	6	3	3	3	1	1	2	2	2	1	1	528	8
繊維製品、衣料品等																	
おしめカバー	1		1	1													
よだれ掛け	6		6	6													
中衣	7		103	7												98	
外衣	6		54	6												44	
下着	16		184	12	4											168	
くつ下	7		7	7													
手袋	2		2	2													
帽子	2		4	2										1	1		
寝衣	2		4	4													
寝具	1		1	1													
えり飾り	2		72													72	
ハンカチ	1		24													24	
床敷物	1		24													24	
革手袋	1		72													72	
家庭用化学製品																	
家庭用洗浄剤	1		5						1								4
住宅用洗浄剤	1		5							1							4
家庭用エアゾル製品	2		6								2	2	2				
家庭用塗料	1		3			1	1	1									
家庭用接着剤	1		3			1	1	1									
靴クリーム	1		3			1	1	1									
つけまつげ用接着剤	2		2		2												

※1 乳幼児(生後24か月以下)用

※2 乳幼児用以外

*³ DTTB は 4,6-ジクロール-7-(2,4,5-トリクロルフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾールの略称

*⁴ アゾ化合物から生成する発がん性を有する又は疑いのある 24 種の特定芳香族アミンを測定

*⁵ 漏水試験、落下試験、耐酸性・耐アルカリ性試験、圧縮変形試験

表2 家庭用品検査項目及び規制基準

検査項目	用途	検査対象	規制基準
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤	乳幼児(生後 24 か月以下)用繊維製品	吸光度差が 0.05 以下又は 16 $\mu\text{g/g}$ 以下
		乳幼児用以外の繊維製品、つけまつげ等用接着剤	75 $\mu\text{g/g}$ 以下
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として 1 $\mu\text{g/g}$ 以下
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として 1 $\mu\text{g/g}$ 以下
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗浄剤	家庭用洗浄剤	アルカリの量として 5% 以下
塩化水素 硫酸	洗浄剤	住宅用洗浄剤	酸の量として 10% 以下
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5% 以下
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	0.1% 以下
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	0.1% 以下
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下
DTTB	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下
アゾ化合物	染料	繊維製品、革製品	特定芳香族アミンとして 30 $\mu\text{g/g}$ 以下
容器試験		家庭用・住宅用洗浄剤	各試験(漏水、落下、耐酸性・耐アルカリ性、圧縮変形)に適合する容器強度を有すること

【 理化学検査研究課 薬事・家庭用品担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年6月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイト統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年6月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和7年6月に追加・更新した主な記事は、6件でした。

掲載月日	内容
6月3日	熱中症情報(2025年6月3日)
6月16日	蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2025年6月16日)
6月16日	感染症に気をつけよう！6月号
6月20日	麻疹流行情報
6月23日	熱中症情報(2025年6月23日)
6月30日	蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2025年6月30日)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/heatstroke.html>

蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/inf-c-kabaikai.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

麻疹流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/measles.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年6月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告がさらに増加しており、2018年の全数調査開始以降、月間報告数で最多です。
- 麻しんの報告が続いており、国内感染例も増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加しています。
- 伝染性紅斑の報告数が高い値で推移しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生しており、引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 ＜2025年5月19日～6月22日に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	24件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	1件	梅毒	33件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	百日咳	204件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件	麻しん	10件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～60歳代で、O血清群は、O157が12件、O26が2件、O103が2件、O25が1件、O111が1件、O不明が6件です。経口感染と推定される報告が8件、接触感染と推定される報告が5件、その他とされる報告が1件、感染経路等不明が10件です。
- E型肝炎**:60歳代で、感染経路等は不明です。
- レジオネラ症**:60歳代で、肺炎型です。感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢**:40歳代で、感染経路等は不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、医療器具関連感染と推定される報告が1件、手術部位感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が2件です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～90歳代で、血清型はA群が4件、B群が2件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:いずれも20歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～60歳代(ワクチン接種歴4回4件、無3件、不明1件)で、飛沫・飛沫核・接触感染と推定される報告が2件、その他とされる報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
- 梅毒**:20歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期13件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者10件です。性的接触による感染と推定される報告が28件(異性間22件、同性間1件、詳細不明5件)、感染経路等不明が5件です。
- 播種性クリプトコックス症**:60歳代で、免疫不全による感染と推定されています。
- 百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴5回3件、4回94件、3回4件、2回2件、1回1件、無10件、不明90件)で、家庭内感染及び周囲の流行が推定される報告が5件、家族内感染と推定される報告が40件、周囲の流行と推定される報告が30件、感染経路等不明の報告が129件です。
- 麻しん**:10歳未満～40歳代(ワクチン接種歴2回3件、無3件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、感染経路等不明が7件です。推定感染地域は、海外が2件、国内が7件、不明が1件です。

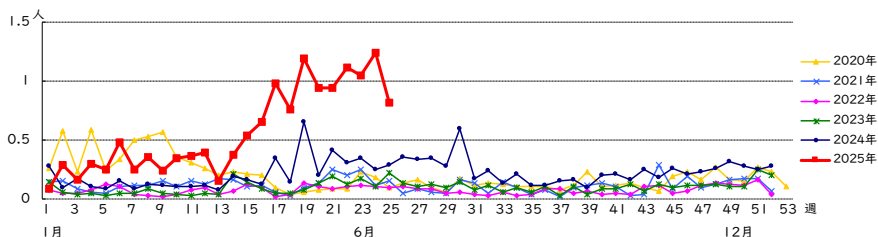
◇ 定点把握の対象

※ 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、小児科定点は 94→51、
内科定点は 59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2025年 第21週	5月19日～5月25日
第22週	5月26日～6月 1日
第23週	6月 2日～6月 8日
第24週	6月 9日～6月15日
第25週	6月16日～6月22日

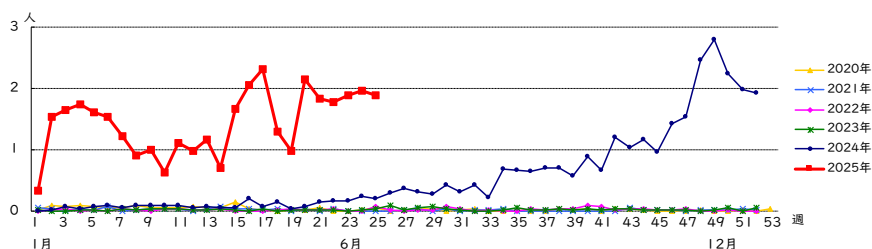
1 水痘

2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降急増し、例年の同時期よりも高い値で推移しています。第 25 週は 0.81 です。



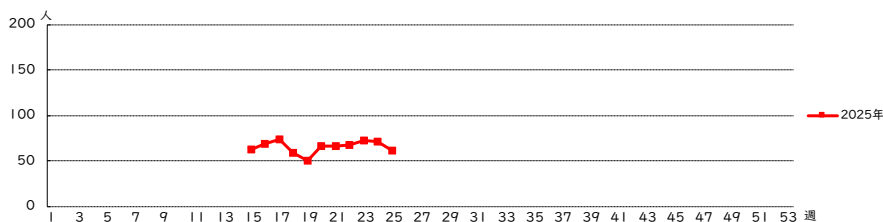
2 伝染性紅斑

2024 年第 49 週(12 月 2 日～12 月 8 日)にピークを迎えましたが、2025 年第 2 週以降も依然として高い値で推移しています。第 25 週は 1.88 です。



3 急性呼吸器感染症 (ARI)

2025 年第 15 週(4 月 7 日～4 月 13 日)から新たに調査を開始しました。概ね横ばいで推移しています。第 25 週は 61.47 です。



4 性感染症 (2025 年 5 月)

性器クラミジア感染症	男性:47件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:20件	女性: 6件
尖圭コンジローマ	男性:28件	女性: 4件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 6件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.25	1.00	1.75	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2025年5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症) 定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院) 定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。
眼科と基幹(病院) 定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

2025 年第 21 週～第 25 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症) 定点 167 件、小児科定点 4 件、基幹定点 2 件、定点医療機関外 1 件でした。

7 月 6 日現在、表に示した各種ウイルスの分離 6 株と遺伝子 116 件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025 年第 21 週～第 25 週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフル エンザ	新型 コロ ナウ イル ス 感 染 症	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	発 疹
インフルエンザウイルス A型	- 2					
インフルエンザウイルス AH1pdm09	1 -					
アデノウイルス			- 2			
アデノウイルス 1型				1 -		
アデノウイルス 2型			1 2			
アデノウイルス 41型					- 1	
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)		- 11				
RS ウイルス			- 2			
ヒトメタニューモウイルス			- 1	- 2		
パラインフルエンザウイルス 2型			2 2	- 1		
パラインフルエンザウイルス 3型			- 24	- 16		
パラインフルエンザウイルス 4型			- 6	- 3		
ライノウイルス			- 30	- 9		
ヒトパルボウイルス B19						- 1
コクサッキーA 6型			- 1			
単純ヘルペスウイルス 1型			1 -			
合 計	1 2	- 11	4 70	1 31	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月期(2025年第21週～第25週)の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症14件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症6件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6件、侵襲性肺炎球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件、菌血症(サルモネラ)2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症1件、百日咳1件、百日咳様疾患疑い1件、細菌の16SrRNA遺伝子検索(脳膿瘍、術部感染)3件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎12件でした。

4月7日から開始された急性呼吸器感染症サーベイランスを実施する「ARI定点」からの検査依頼は74件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第21週～第25週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	14	O157 : H7 VT1 VT2	(4)
			O157 : H7 VT2	(2)
			O26 : H11 VT1	(2)
			O26 : H- VT1	(1)
			O25 : H+ VT2	(1)
			O103:H+ VT1	(1)
			Og5 : Hg9 VT1	(1)
			Og108 : Hg25 VT1	(1)
			Og123/186:Hg2 VT1 VT2	(1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6	<i>Enterobacter colacae</i> complex	(3)
			<i>Klebsiella aerogenes</i>	(2)
			<i>Escherichia coli</i>	(1)
保健所	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	A群溶血性レンサ球菌 T1型	(1)
			A群溶血性レンサ球菌 T4型	(1)
			A群溶血性レンサ球菌 TB3264型	(1)
			A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(1)
			B群溶血性レンサ球菌 I a型	(1)
			B群溶血性レンサ球菌 V型	(1)
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 3型	(1)
			<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22F型	(1)
			<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F型	(1)
			<i>Streptococcus pneumoniae</i> 38型	(1)
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> blaNDM-1	(1)
	サルモネラ症	2	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O13群	(2)
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	脳膿瘍	1	髄液	16SrRNA遺伝子 陰性 (1)
	低月例発熱	1	鼻咽頭ぬぐい液	百日咳菌、パラ百日咳菌、 <i>Bordetella holmesii</i> 、肺炎マイコプラズマ各遺伝子 陰性 (1)
	レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
	人工膝関節形成後術部感染	2	関節液、骨部	16SrRNA遺伝子 陰性 (2)
	百日咳	1	鼻腔ぬぐい液	<i>Bordetella pertussis</i> (1) (マクロライド耐性遺伝子変異無し)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	A群溶血性レンサ球菌 T4 (9) A群溶血性レンサ球菌 T28 (2) 培養 陰性 (1)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	鼻咽頭ぬぐい液 鼻汁 等	ARI	74	百日咳菌遺伝子 陽性 (0) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】